

授業科目

公衆衛生看護学実習II

担当教員名 小山 歌子、宇田 優子、杉本 洋、稲垣 千文、和田 直子	対象学年	3	対象学科	看護
	開講時期	後期	必修・選択	選択
	単位数	3	時間数	135

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎	◎	◎

授業の概要

公衆衛生看護の理念に基づいた保健師の看護活動を実践する基礎的能力を修得するため、実習地域のアセスメントや保健所・市町村等における公衆衛生看護活動への参加・実践を通し、公衆衛生看護活動の目的、方法、実践に必要な知識及び技術等について体験的に学習する。

授業の目的

地域で生活するあらゆるライフサイクル、多様な健康レベルにある個人や家族、集団を対象に、公衆衛生看護の理念に基づいた保健師の看護活動を実践する基礎的能力を修得する。

学習目標

1. 地域で生活する人々の暮らし、ライフステージ、健康レベルの多様性を理解する。
2. 地域の健康課題を考察する。
3. 個人、家族、集団を対象とする看護活動の方法を理解し、保健指導に必要な基本的技術を習得する。
4. 地域で生活する人々とのパートナーシップと健康課題解決に向けた連携と協働活動を理解する。
5. 保健事業の意義と、行政保健師が果たしている役割を考察する。
6. 地域の特性を踏まえた保健行政体制を理解する。

授業計画

授業計画・学習の主題	担当教員
1. 学内オリエンテーション 実習目的、目標、実習概要の説明、実習事前課題の提示、実習グループ編成	小山 歌子 他
2. 実習地域のアセスメント 既存資料、地区踏査、住民・関係機関への聞き取り等から収集した情報の分析・考察	小山 歌子 他
3. 保健所・市町村等における公衆衛生看護活動に参加・実践 公衆衛生看護活動の目的と方法、実践に必要な知識や技術等について体験的に学習	小山 歌子 他
4. 評価・反省 毎日・中間・最終カンファレンスの実施	小山 歌子 他
5. 実習報告会、課題レポートの作成	小山 歌子 他

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	第4版 公衆衛生看護学JP	荒賀直子、後閑容子	インターメディカル			既に購入したものを使用する。
	公衆衛生看護学	津村智恵子、上野昌江	中央法規			既に購入したものを使用する。
参考書						
その他の資料	実習要項					

評価方法

実習事前テスト	10%程度
実習事前学習課題	10%程度
実習目標の到達度	40%程度
実習態度	10%程度
各種実習記録・レポート	30%程度

履修上の留意点

積極的に取り組むこと

オフィスアワー・連絡先

学内実習日の実習終了時間から17:30まで・utako-koyama@nuhw.ac.jp